地域支援部

# 地域支援かわら版

第2号
令和８年９月３０日（水）発行

埼玉県立狭山特別支援学校　〒350-1327 埼玉県狭山市笹井 2958
でんわ：04-2953-1612
（Fax　：04-2969-1033）
E-mail ：sayama.c.l@spec.ed.jp
http://www.sayama-sh.spec.ed.jp/

さ さえあう　子どもたちが地域に戻ったとき、気軽にサポートしてくれる人、
や さしい　やさしく見守ってくれる人がたくさんできますように・・・・・・
ま ちづくりを　と、地域に優しさの種を蒔く活動をしています。

## ボランティア養成講座を開催しました

５月末から７月頭にかけて５回のボランティア養成講座を開催しました。本講座は、狭山市・入間市・飯能市・日高市の各社会福祉協議会、本校 PTA の御協力をいただき運営しており、今年度５名の参加がありました。

１回目は学校の概要説明や校内見学、２回目は運動会の見学、３・４回目は、実際に各クラスに入り授業体験を行いました。運動会では、子供たちが元気に一生懸命取り組む姿に感動したという感想が印象的でした。授業体験では、受講生の方々に実際に児童生徒と活動していただき、講座の最後に感想や疑問点などを出し合って、共有しながら児童生徒理解を深めてもらうことができました。そして最後の５回目は、講座の振り返り、修了証の受け渡しやボランティアバンクへの登録等を行いました。

養成講座を終えて、ボランティア登録された方は早速、９月からボランティアとしての活動が始まっています。これからも児童生徒の成長を共に支えていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします！

## 公開講座「子ども家庭を支える地域の輪」130人参加!

**【令和８年度 公開講座を開催しました！】**

第１部では、光の家療育センター施設長の鈴木郁子先生に「子ども・家庭を支える地域の輪～医療の立場から教育・福祉に期待すること～」と題して、基調講演をいただきました。第２部では、狭山市児童発達支援センターあんずの柳澤健一先生、狭山清陵分校教頭畠山和也先生をお迎えし、シンポジウム形式で各方面から、子どもを支える視点についてご意見をお話しいただきました。シンポジウムの進行には本校特別非常勤講師であり、フリーランスに地域で活躍されている作業療法士の岩田考史先生をお迎えしました。外部から約 50 名（オンライン、対面含む）、本校・分校の教員を合わせて約 130 名の方にご参加いただき、温かい雰囲気の中で学びを深めることができました。立場は違っても、目指すところは同じ。「システム的な連携」だけでなく、「普段からのちょっとしたつながり」や「顔の見える関係づくり」を大切に、地域全体で子どもを支えていくことの大切さを再確認しました。

**★ 批判からは連携は生まれない**

**・お薬に対する考え方：**服薬は悪いところを直すためではなく、「本人が楽に生活しやすくなるため」に使うもの。

**・相反する「親機能」の大切さ：**「禁止・我慢させる機能」と「受け入れる機能」を同時に発揮すること。「ダメなものはダメ。でも、必ずそばにいる」というメッセージが子どもの安心感につながる。

**・肯定的なまなざしを送る：**「あなたには生きている価値がある」と伝える温かいまなざしが、子どもの根を育てる。

**・多様性と折り合いをつけるスキル：**「相手は自分とは違う」ことを知り、社会と折り合いをつける力を身につけること。人の気持ちが分かることは社会の潤滑油になり、周りにたくさんの「応援団」を作ることにつながる。

**★ 各立場からの具体的な連携に向けて**

**・「顔の見える関係性」が輪をつくる：**システム頼みではなく、「この間〇〇だったね」とフランクに話せる関係性を大切にしたいですね。お互いに思いやりを持ち、連携をオプション（おまけ）ではなく主たる課題として捉えていきましょう。

**（狭山市児童発達支援センターあんず：柳澤先生）**

**・お互いの柔軟性で「間」を埋めていく：**目標や目的を全員で共有し、役割分担を整理することが大切。お互いに柔軟性を持って隙間を埋め合い、他機関での取り組みや子どもの頑張りを知った上で、トータルで子どもを考えていきましょう。

**（狭山清陵分校：畠山先生）**

ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。今後も地域とのつながりを一層深め、子どもたちの豊かな学びと生活を支えてまいります。